

上越市創造行政研究所（上創研）は、平成12年に設置された上越市役所の組織内シンクタンクです。当市のまちづくりを支援する調査研究機関として、人口データなどの分析や情報提供、フォーラムやワークショップの開催、調査研究による政策提言などを行っています。

Topic 01

地区別まちづくりの一環として、大学との連携に取り組みました

■地元学で地域の「あるもの探し」！

持続可能な地域社会の実現に向けた「持続可能な地区別まちづくり推進事業（地区まち）」の一環として、大島区と牧区で地元学ワークショップを行いました。

11月23日（日）、24日（月・祝）は大島区にて上越教育大学1年生の学生が、27日（木）、28日（金）は牧区で新潟大学2年生の学生が参加し、各地区の皆さんにご協力いただき、中山間地域の生活に根差した知恵や地域の魅力を掘り起こしました。

本ワークショップの成果は、移住希望者向けのプロモーション資料やSNSでの魅力発信コンテンツに組み込むなど、地域の持続的な発展に繋げるための施策検討に反映する予定です。

学生の声（牧区・農村文化（ちまき製造）テーマ）
「ちまきづくりの作業も交えてお話を伺い、普段の暮らしの知恵や技に触れ、驚きや感動を覚えました。私たち「よそもの」の視点から、牧区の魅力を再認識できた貴重な機会でした。」

地域の人の声（大島区・食テーマ）
「学生さんが真剣に話を聞いてくれて、大変嬉しかった。当たり前すぎて意識していなかった保存食の工夫や、雪国での暮らしの知恵を、改めて価値のあるものだと気づかされました。」



ココがすごい！

地元学とは？

地域に暮らす方々の生活や知恵を、学生の皆さんの新鮮な視点で「すごい！」と発見し、伝える活動です。

手順は、①地域の方からテーマに沿った暮らしのお話を聞き取り、②写真と手書き文字で模造紙にまとめ、③地域の方々に発表する、というもの。このプロセスを通じて、当たり前にある地域の宝物を探し出し、地域の方々が「日常って素敵なんだ」と気付くきっかけになります。



■新潟県立看護大学の「ふれあい実習」で講演しました

新潟県立看護大学では、地域交流を通じて文化や生活する人々の価値観を学ぶ「ふれあい実習」を毎年開催しています。

研究所では、第1回目の講義で「上越市の人口データ」、「地区別の地域介護分析」、「持続可能なまちづくりに向けた地域の取組」の3つをテーマに講演を行い、上越市の現状や課題について学生と情報を共有しました。

地域が抱える問題に焦点を当て、学生が住民目線で課題を考えられる内容としたことで、地域と学生がともに学び合うこの実習が、より地域に根差した持続可能なまちづくりや住民の生活の豊かさに繋がることを期待しています。



Topic 02

今年度の「地区まち」 — 板倉区・中郷区の取組 —

■【中郷区】「地区まちワークショップ」が始まっています



<ベテランチーム>



<ヤングチーム>



<職員チーム>

中郷区地域協議会では、「い〜住プロジェクト」と題し、移住定住促進に向けた審議を行っています。

今後の協議を進めるにあたり、委員相互の意識共有と協議の焦点を絞り込むため、当研究所が取り組む「地区まちワークショップ」（計3回シリーズ）を実施しています。

第1回のワークショップでは、まず、藤山所長より、地域の地域診断（将来人口予測や介護分析）や実際に定住増加に成功した先進事例のミニ講演を行いました。その後、委員をベテランとヤングチームに分け、そこに中郷区総合事務所職員チームを加えた3チームでワークショップを行いました。

最初に、現状や課題そして今後の推移をわかりやすいグラフで確かめ、その要因を考えます。

次に、「地域人口分析・予測シミュレーションシステム」という独自の分析プログラムを用いて、人口安定化のためには実際どのくらい定住を増加させればよいか、チームごとに「これならできる」と思われる組合せを検討し、最後に各チームごとに、人口減少の要因と定住増加目標を発表しました。

どのチームの目標も、出生率や転出率の改善を組み合わせ、年代ごとの組数にもアクセントをつけるなど工夫されており、違いがみられました。このように具体的な定住増加目標なくしては、具体的な取組を始めることはできません。

次回以降、定住増加目標を見出したあとは、その実現に向け、地区の現状、課題、可能性の診断を行い、さらに区内で活動する組織の構成を示した「地元関係図」を用いて、定住促進に向けての地元の強み・弱みを「地元天気図」としてまとめ、定住促進に向けたプランを検討する予定です。

■【板倉区】板倉中学校でレゴブロックを使ったワークショップを実施しました

板倉区では現在、定住促進に向けた持続可能な地域づくりをテーマとした住民ワークショップが開催されています。その一環として、板倉中学校の1年生が将来の理想的なまちを思い描き、それをレゴブロックを使って形にするワークショップを実施しました。生徒たちは班ごとに話し合いながら、未来の農園や廃校となった校舎の活用など、6つのミッションの中から1つを選び、自分たちが「将来こんな板倉に住みたい」まちの姿を個性豊かに作り上げました。完成した作品は11月2日（日）の板倉ふれあいまつりで展示され、地域の多くの方々にご覧いただき、板倉の未来への思いが共有される貴重な機会となりました。

